神奈川自然誌資料(22):29-30, Mar. 2001

津久井郡藤野町で保護されたヤマネの記録

栗林弘樹・伊藤恵美

Hiroki Kuribayashi and Megumi Ito: Notes on the rescued Japanese Dormos in Fujino Town , Tsukui District , Kanagawa Prefecture

はじめに

ニホンヤマネ *Glirulus japonicus*（以下，ヤマネという）は，ヤマネ科ヤマネ属に属する小型のげっ歯目の動物である。日本固有種で，国の天然記念物に指定されている。神奈川県内での記録は丹沢山地でのコウモリ用巣箱をヤマネが利用した記録（山口, 1999）や山小屋での発見による観察例などに限られ，個体数は少ないとされている（浜口ほか, 1997）。

今回，県内では丹沢山地以外で初めてヤマネが保護され，神奈川県自然環境保全センター（以下，センターという）に搬入されたのでここに報告する。

保護状況

このヤマネは，平成12年6月20日に，津久井郡藤野町名倉地内（海抜約280 m，統計に用いる標準地域メッシュの3次メッシュコード5339-31-11）の古い農家に併設された牛舎を改装した建物で発見された。この建物は隙間が多く，小型ほ乳類の出入りは制限されない構造となっている。

保護場所は幅約4mの道路に隣接し，その周辺は北向きの緩斜面で，道路沿いに民家などがあるほか，農地（クワ，クリ，野菜類等）として利用されている。農地の南側は，コナラ等の二次林，スギ等の人工林となり，標高400mほどの尾根につながっている。

ヤマネの保護者は，この建物内で走り回る小動物を発見し，当初モモンガの幼獣と誤認し保護した。翌日，センターボランティアを通じ，センターに連絡した。センターでは，連絡内容からヤマネの可能性があると判断し，保護者宅を訪ね平成12年6月21日に収容した（図1）。

保護後収容するまでの間に何らかの外的要因により，この個体の尾（皮膚及び筋）が骨を残して抜け落ちていた（図2）。

収容後の経過

保護翌日計測を行った。幼獣で，体重6.9g，頭胴長54mm，尾長35mm（抜け落ちたため，残った骨を計測），後足長14mm，耳長4mmで，雌雄は不明であった。

幼獣であることから，親からはぐれた可能性があると考え，数日間飼養することとした。餌は，ミルクの強制給餌と併せて，ミルワーム，ヒマワリの種（殻を取ったもの），果物（サクランボ等）などを置き餌した。飼育ケージは，食器乾燥用のプラスチック製のカゴ（蓋付き）を用い，内部にタオル，雛鳥用フゴ，巣箱を置いた。置き餌の採餌状況が良かったため，平成12年6月29日，保護場所付近の

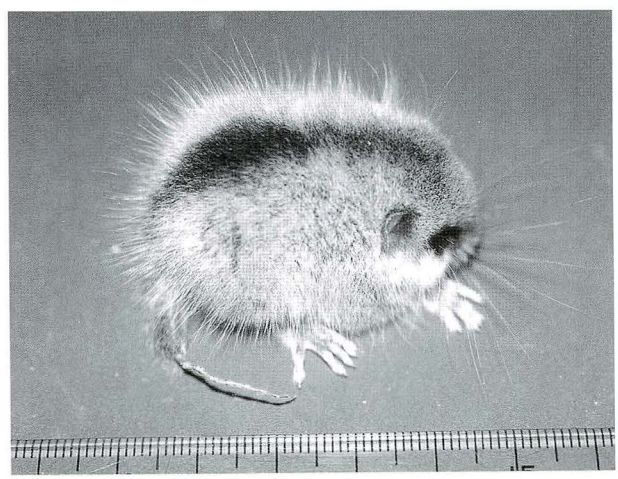

図1. 保護されたヤマネ.

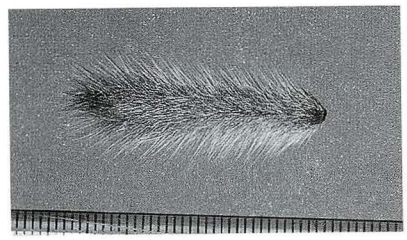

図2. ヤマネの抜け落ちた尾.

図3. 放獣時に設置した巣箱.

雑木林（コナラ等の二次林）に飼育中に使用していた巣箱（図3）を設置し，巣箱内に放獣した。

平成12年10月6日，設置した巣箱の内部を点検したところ，巣箱内にはヤマネの姿はなかった。土や噛み跡など若干利用の痕跡はあったが，巣材は入っていなかった。

おわりに

今回の記録が，人為的に運ばれた個体である可能性は否定できない。しかし，山梨県天然記念物（ヤマネ）調査委員会（1999）によると，藤野町に隣接する山梨県北都留郡上野原町ではヤマネの観察記録があり，本記録は山梨県と連続した分布を示す記録であるとも考えられる。本記録を県北部でのヤマネの生息について情報蓄積の一助としたい。

謝　辞

このヤマネの飼養，放獣にあたりご指導，ご協力をいただいた丹沢湖ビジターセンター山口喜盛氏，宮が瀬ビジターセンター青木雄司氏に対し，ここに厚くお礼申し上げる。

引用文献

山口喜盛, 1999. コウモリ用巣箱を利用した丹沢山地のニホンヤマネについて. 平塚市博物館研究報告「自然と文化」, (22): 27-37

浜口哲一・平田寛重・山口喜盛・青木雄司, 1997. 丹沢山地の哺乳類・爬虫類・両生類. 丹沢大山自然環境総合調査報告書, 丹沢山地動植物目録, pp.1-5. 神奈川県環境部, 横浜.

渡邊憲子・山口喜盛, 1998. 丹沢山地札掛で拾得したヤマネについて. 神奈川県立自然保護センター報告, (15): 17-20.

中島福男, 1996. ヤマネ. 動物大百科1 哺乳類Ⅰ, pp.88-91. 平凡社, 東京.

山梨県天然記念物（ヤマネ）調査委員会, 1999. 山梨県天然記念物緊急調査報告書ヤマネ. 92 pp. 山梨県教育委員会, 甲府.

（神奈川県自然環境保全センター）